

決算審査特別委員会会議記録（第1号）  
（本庁第2班）

令和5年 9月25日

福島県議会

1 日時

令和5年 9月25日(月曜)

午後 2時39分 開議

午後 4時 7分 散会

2 場所

福祉公安委員会室

3 会議に付した事件

知事提出議案第39号 決算の認定について

4 出席委員

副委員長	橋本 徹	委員	宗方 保
委員	今井久敏	委員	紺野長人
委員	遊佐久男	委員	先崎温容
委員	宮川政夫		

5 議事の経過概要

(午後 2時39分 開議)

橋本徹副委員長

ただいま出席委員が定足数に達しているので、これより本日の会議を開く。

初めに、委員席の決定であるが、ただいま着席のとおり決定して異議ないか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

橋本徹副委員長

異議ないと認め、そのように決定する。

次に、会議録署名委員については、班長指名で異議ないか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

橋本徹副委員長

異議ないと認め、宮川政夫委員、紺野長人委員を指名する。

本日は、人事委員会事務局及び土木部の審査を行う。

これより人事委員会事務局の審査に入る。

直ちに人事委員会事務局長の説明を求める。

人事委員会事務局長

(別紙「令和5年度(令和4年度普通会計分)決算審査特別委員会人事委員会事務局説明要旨」により説明)

橋本徹副委員長

続いて、事務局次長の説明を求める。

事務局次長兼総務審査課長

(調査資料ほか説明)

橋本徹副委員長

以上で説明が終わったので、これより質疑に入る。

質疑のある方は発言願う。

宮川政夫委員

採用試験について、受験者数1,417名、合格者数488名と説明があった。近年は受験者数が減少していると聞いているが、令和3年度と比較してどの程度増減があるのか。また、特に技術職の受験者が少ないと聞いているが、4年度の状況を具体的に聞く。

採用給与課長

受験者数の状況だが、令和4年度が1,417名、3年度が1,590名で173名減となっており、主な内訳としては、警察官で82名減、大学卒程度で22名減である。

また、技術職について、採用予定者数から見て受験者が少なかったのは6月に試験を実施した大学卒程度の土木職であり、採用予定者数21名のところ受験者数12名、そのほかの職種として、心理職は採用予定者数14名に対して受験者数5名という状況であった。

宮川政夫委員

受験者数が少ない状況に対して、例えば土木職であれば、通常の受験シーズンより前に受験できるシステムができたとの話も聞いているが、本県ならではの採用方法があれば聞く。

採用給与課長

土木職は受験者が非常に少ない状況であることから、通常の大学卒程度試験とは別に先行実施枠としても試験を実施しており、内容も通常の試験より受験しやすくなっている。

橋本徹副委員長

ほかにないか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

橋本徹副委員長

なければ、以上で人事委員会事務局の審査を終わる。

土木部と交代のため、暫時休憩する。

(午後 2時55分 休憩)

(午後 2時58分 開議)

橋本徹副委員長

再開する。

これより土木部の審査に入る。

直ちに、土木部長の説明を求める。

土木部長

(別紙「令和5年度(令和4年度普通会計分)決算審査特別委員会土木部長説明要旨」により説明)

橋本徹副委員長

続いて、土木総務課長の説明を求める。

土木総務課長

(調査資料ほか説明)

橋本徹副委員長

続いて、土木企画課長の説明を求める。

土木企画課長

(調査資料ほか説明)

橋本徹副委員長

続いて、道路計画課長の説明を求める。

道路計画課長

(調査資料ほか説明)

橋本徹副委員長

続いて、河川計画課長の説明を求める。

河川計画課長

(調査資料ほか説明)

橋本徹副委員長

続いて、都市計画課長の説明を求める。

都市計画課長

(調査資料ほか説明)

橋本徹副委員長

続いて、建築住宅課長の説明を求める。

建築住宅課長

(調査資料ほか説明)

橋本徹副委員長

以上で説明が終わったので、これより質疑に入る。

質疑のある方は発言願う。

宮川政夫委員

調査資料81ページの福島県多世代同居・近居推進事業について、以前、希望者が増加傾向にあり、予算が足りずに交付を受けられなかった者もいたと聞いたが、令和4年度及び3年度の補助実績はどの程度だったのか。

建築指導課長

令和4年度が150件、3年度は107件である。委員指摘のとおり希望者が増えており、4年度は見込み件数を増やして予算措置した。

先崎温容委員

予算執行説明資料387ページのふくしまインフラツーリズム推進事業及び同392ページの元気ふくしま地域づくり交流促進事業の違いについて、詳しく説明願う。

まちづくり推進課長

ふくしまインフラツーリズム推進事業は令和4年度から新規で実施している事業であり、インフラを通じて地域の魅力を発信し、インフラに関心を持ってもらうとともに、地域の交流拡大を図ることを目的としている。

元気ふくしま地域づくり交流促進事業は、地域の資産や歴史にスポットを当て、個性と魅力ある地域づくりを推進するとともに、地域の交流拡大を図るものである。

先崎温容委員

土木部はサイクリング関係にも力を入れているため、ふくしまインフラツーリズム推進事業はサイクリングを絡めた観光や地域活性化策とのイメージを持っていた。

元気ふくしま地域づくり交流促進事業では、以前、小野町の早渡ふじ公園が整備されたが、そのような形で災害時の減災効果を図りながら、地域の宝と触れ合う機会を創出する事業との理解でよいか。

まちづくり推進課長

ふくしまインフラツーリズム推進事業は、ダムや橋梁などインフラ施設そのものに光を当て、ツアーを通じてそれらの魅力を感じてもらおう取組である。

元気ふくしま地域づくり交流促進事業は、それぞれの地域の宝や魅力にスポットを当て、交流拡大につなげていく取組である。

先崎温容委員

ふくしまインフラツーリズム推進事業について、事業内容は理解したが、実際にツアーで回った具体的なインフラ施設などの詳細を聞く。

また、令和4年度の新規事業とのことであり、今後も継続して取り組むことを視野に入れていると思うが、取組の効果をどう評価しているのか。

まちづくり推進課長

令和4年度は福島市の西部地域において実施しており、摺上川ダムや荒川砂防堰堤の見学に加え、県営あづま球場のバックヤードツアー、福島交通飯坂線の車両基地での運転体験も実施している。また、ふくしまスカイパークではセスナ機見学を実施した。

次に、取組の効果については、これまで間近に見てもらえる機会がなかったダム内部を歩いてもらったり、ダム湖でのカヤック体験などを通じて、見るだけでなく体験もすることで魅力を感じてもらい、インフラを身近なものとして関心を持ってもらうことができた。

先崎温容委員

よい視点の取組と受け止めている。今後も続けていく上では観光交流局のエクストリームツーリズムなどが関係してくることもあるかと思うため、関係部局と意見交換等を重ねながら推進を図ってほしい。意見として述べる。

遊佐久男委員

道路や河川などの工事発注における入札不調の状況とこれまでの推移を聞く。

建設産業室長

令和4年度の入札不調率は、土木部全体で6.3%だった。2年度は10%超、3年度は7%台、4年度は6%台であり、徐々に落ち着きを見せていると認識している。

遊佐久男委員

不調率が下がっていることは喜ばしいが、入札不調になった場合、当該予算は不用残として処理されるのか。

建設産業室長

入札不調になった場合、不調となった原因を調査し再度入札を行う。それが適さないときは予算を保留し、別の事業に回すなど適切な執行に努めている。

遊佐久男委員

結果として別の事業に融通するのであれば、あらかじめ入札不調のおそれを把握し、より効率的に予算配分するのが望ましいと思うが、どうか。

建設産業室長

不調になった案件については各発注者において原因等を調査するが、原因は様々である。例えば、事業者は自らの経営戦略の中で、手持ち工事や今後発注見込みの工事などを勘案して入札参加を決めるため、事前に当該工事の不調を予測することは難しい。

橋本徹副委員長

ほかはないか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

橋本徹副委員長

なければ、以上で土木部の審査を終わる。

以上で、本日の会議を終わる。

明26日は午前10時より委員会を開く。

審査日程は、危機管理部、監査委員事務局、警察本部及び農林水産部の審査並びに中間取りまとめ会議についてである。

なお、本日の締切りまでに所属班以外の部局に対する質疑の通告はなかったため、明日は班別審査が終了次第、散会となる。

これをもって散会する。

(午後 4時 7分 散会)